

令和4年度
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	05	08	104560	民俗芸能伝承支援事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興	
	施策	04	民俗芸能の伝承			
目的	市内各地域に古くから伝承されてきた民俗芸能を保存するため、伝承活動や後継者育成を支援する。					
対象	民俗芸能を伝承する団体及びその伝承者、後援会等の支援者、地域住民					
意図	伝承者の育成を支援し、民俗芸能の保存と地域への人の定着を図る。					
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土芸能鑑賞会の開催 3,706千円 花巻市郷土芸能鑑賞会、花巻市青少年郷土芸能フェスティバル、古民家活用郷土芸能鑑賞会 みちのく神楽大会、倉沢人形歌舞伎公演 ○民俗芸能全国組織への参加 15千円 全国民俗芸能保存振興市町村連盟への加盟 ○民俗芸能団体との意見交換会の開催等 27千円 現状と課題の把握及び課題解決策の検討 ○小中学校への民俗芸能普及の支援 200千円 小中学校での民俗芸能鑑賞会の開催 					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	<input type="radio"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input type="checkbox"/> 事業協力・協定	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="radio"/> 委託	
活動指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	郷土芸能鑑賞会の事業実施数	回	計画	5.00	5.00	
			実績	2.00	5.00	
2	民俗芸能団体の支援を行うコミュニティ会議の数	地区	計画	27.00	27.00	
			実績	12.00	12.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R03	R04	R05
1	郷土芸能鑑賞会の入場者数	人	目標	2,200.00	2,200.00	
			実績	1,165.00	2,054.00	
2	無形民俗文化財(民俗芸能)の指定数	件	目標	56.00	56.00	
			実績	55.00	55.00	
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い	<input type="radio"/>	概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
郷土芸能鑑賞会の入場者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため入場制限を設けたこともあり数が伸びず、目標には達しなかったものの、令和3年度に比べ大きく増加し概ね目標値どおりとなった。無形民俗文化財（民俗芸能）の指定数は、伝承者が指定を受けていることを強く意識し、後継者の育成に努めているため、現状数を維持できているものと思料する。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	郷土芸能鑑賞会の開催は市主催事業であり、各地域で伝承活動を実践する民俗芸能団体や、学校教育の一環として民俗芸能を積極的に取り入れている学校等が出演している。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	地域や学校等が積極的に民俗芸能保存団体並びに伝承者を支援することにより、発表機会の創出、保存意識の向上につながる。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	市の人口が年々減少傾向にある中で、青少年等による民俗芸能伝承活動に対する積極的な支援が、地域発展の支えとなっていることから、経費削減は地域の沈滞を招き、市にとっても大きなマイナスイメージとなる。
	<input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある	
	<input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	市の広報紙やホームページ、各地域の振興センターや公共施設等を通じ、公平な情報の提供に努めている。郷土芸能鑑賞会の出演にあたっては、地域バランスを考慮しながら各地域の民俗芸能団体等に呼びかけを行い、公平性に努めている。
	<input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある	
総合評価	<input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある	
	<input type="radio"/> 適正である	
	今年度の振り返り	新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や入場制限を設けた公演もあったが、国庫補助事業を活用して新規公演を実施し、活動発表の機会を拡充することができた。また、小中学校での民俗芸能鑑賞会の実施により、民俗芸能団体の発表の場を確保するとともに、児童生徒が民俗芸能へ直接触れる機会を提供することができた。ほか、民俗芸能団体との意見交換会では、部活動等で民俗芸能に取り組む高校生を対象として実施し、それぞれの活動状況や抱える課題の把握と、参加者同士での情報交換の場を創出することができた。さらに、用具修理等に対する国庫補助事業を活用し、18団体の衣装新調や山車修理を行い、地域に伝わる民俗芸能の伝承を図ることができた。
次年度に向けて	民俗芸能の保存伝承のためには、市民への普及を図ること、後継者の確保、並びに保存会員のモチベーションを高めるため、発表の機会（公演）を設けることが重要であると考え、引き続き、公演事業を実施していく。特にも、将来、民俗芸能の後継者となることが期待される青少年への、民俗芸能の伝承・普及活動が重要と考え、青少年の公演と小中学校への民俗芸能の普及の機会を設けることを継続していく。また、国庫補助事業を継続して活用し、市内民俗芸能団体所有の用具修理等を行い、地域の民俗芸能の伝承を支援していく。	